

Shinran
500th
800th

京都教区

2021年10月1日発行

慶讃だより

2021年
秋号

△慶讃テーマ▽

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう



● 慶讃テーマから問われてくること

● 慶讃テーマ委員

● 8地区より

● 京都教区同朋会議レポート

● 慶讃クロスワードパズル

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要（きょうさんほうよう）

第1期法要/2023年3月25日（土）～4月8日（土） 讃仰期間/2023年4月9日（日）～4月14日（金） 第2期法要/2023年4月15日（土）～4月29日（土）



南無阿弥陀仏

人と生まれたことの
意味をたずねていこう

慶讃
テーマ
委員

結柴 依子

けしば・よりこ
奥羽教区 浄専寺

「人に成っていない」。

統合失調症で社会生活が困難だった兄に対する祖父の言葉です。「お前は人間じゃない」というこの言葉で兄や両親を傷つけた祖父を長年恨んできましたが、祖父を恨む資格など私にはないことも内心分かっていました。誰よりも兄を恥ずかしく思い、普通に行きえないことに苛立ち、理解しようとしなかったのはこの私だからです。効率や生産性ばかりが重視され、能力の有無によって生きる意味や人としての価値が計られていく社会を私たちは生きています。

五十年前の慶讃テーマは「生まれた意義と生きる喜びを見つけよう」でした。この言葉に深い共感や感動を覚えた人は少なくないでしょう。しかし、今改めて自分自身や社会のありようを

見つめてみた時に、生まれた意義と生きる喜びということが、念仏の教えによって本来にあきらかになっていくのだろうかということが委員会の中で課題となりました。「私」を中心とした意義や喜びだったのではないかと。

故中川皓三郎先生は、

「私」というものを中心に生きるというこの問題は、自分が喜べない自分自身と、思い通りにならない、喜ぶことのできない人に出あってしまうということです。そうすると、私はどうしてこんな私なのか、こんな人とどうして一緒におらねばならないのかという嘆きの中で、自分の生を見るということになってしまふ。私のことを誰も分かってくれない、本当に自分自身が自分自身を見捨ててしまふ生を生きざるを得ないわけです。

という問いかけを残してくださいました。

人と生まれたことの意味や生きる喜びを南無阿弥陀仏の法によってたずねていこう、私たちの拠るべきところは南無阿弥陀仏なんだということテーマできちんと表現したいと思いまし

た。

南無阿弥陀仏は、いつでもどこでもだれにでも開かれた行き易き道として、「共に」という仏様の願いから生まれた名です。生まれた環境や境遇、能力は一人ひとりちがいますが、その差異が障りとならない世界が念仏によってすでに開かれているのです。

共に学び、共に語り合う聞法を通してそのことを確かめ合い、誰にも代わってもらうことのできないかけがえのないいのちを生きている感覚を回復していくことが慶讃法要から願われているのではないのでしょうか。

まもなく亡き兄の誕生日がやってきます。「煩悩具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろずのこと、みなもって、そらことたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておわします」という宗祖のお言葉を心に刻みながら、人と生まれたことの意味や願いをたずねていきたいと思えます。

ご縁に結ばれて

石見

河野 緑

こうの・みどり
石西組 西蔵寺門徒

「人と生まれたことの意味をたずねていこう」このテーマは、私が幼い頃からの自身のテーマでした。

親子ほど歳の離れた姉から事ある毎に「おまえが生まれたばかりに」と言われ続け、「どうせ私なんか」と自暴自棄のひねくれた小学生でした。それでも「生まれて来たのだから何か意味があるはず」と答えを求め、学校で先生にその事を問うと先生は「学校に来るより精神科へ行け」と言い、行き場の無い私は自分を傷付け、その痛みを感じる事で「生きている実感」を味わっていました。

リストカットをくり返すある時、老僧から「身に課す行は出来ないが生ききる事が

行」と諭され、小学生の私はお寺の本堂の下が身を置ける所となり、あの頃から聞法への歩みが始まった様に思います。仏法が何かも判らない十二、三歳の子どもに「生ききるのが行」と諭してくださいましたあのことは、今になってようやく二河白道の譬喩の事を言おうとされていたのだろうと気がきました。

母を責め、姉を恨み、生きる意味を失った私が、お念仏に会い仏法に触れ、「私は私のまま生きれば良い。そのまんまの私を救ってください。その事を信じてお任せすれば良い」。願われているのに背き、罪を重ね、口から出る言葉は人を傷付け、それが又自分に戻りと、業の深い私には並の事では如来様からの呼び声が届かなかったのです。子どもを亡くした時にやっと「観無量寿経」を深く頂ける私となりました。大嫌いだっただ姉、精神科を勧めた先生、何もかもが私を仏法へのご縁として導いてくださる善知識の方々だったのです。

韋提希は私自身。人は縁によって変わり

うる身であり、阿弥陀仏の本願の中に生かされていると知る事が「私は私に生まれて良かった」と素直に頭が下がる人生を送る事だと思っています。

老僧から諭されて五十年以上過ち、やっとなし「人として生まれてきた意味」が判りかけた様に思います。私はお念仏と出会う為に生まれて来たのだとはっきり言えます。

どんなご縁に会おうとも、如来様からたまわりたる信心とともに自分の身に引き受けさせてもらえる覚悟が出来ました。時には覚悟が揺らぐ様な思いもよらない事がありますが全て、私を育てて下さる如来様のおはからいでしよう。

生まれて来て良かった。あの時命を捨てずに良かった。お念仏に出会えて良かった。そして還るべき所が見つかって良かった。「南無阿弥陀仏」このご縁を大切に、もう少し意味をたずねていこうと思います。

京都教区 同朋会議 レポート

2020年



二〇二一年六月七日(月)、二〇二〇年度

教区同朋会議が開催されました。新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑み、教区会館大講堂では人数制限が設けられていることもあって、参加者各々がオンライン会議ツール(Zoom)を使用したWeb会場を中心としての開催となっています。今回の会議には教区会議員・教区門徒会常任委員・教区教化委員等の内、Web会場に五十三名の方が出席され、十七名の方が教区会館での出席となりました。

本来この会議は二〇二〇年五月二十一日に開催予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症の広がりを受け二〇二一年一月十四日に延期され、さらに再延期されていました。六月時点でも京都府は緊急事態宣言下であり、Web併用会議の形を取って、教区同朋会議という大規模会議が開催される運びとなりました。

しかしながら、京都教区においてはこれほどの大規模のWeb併用会議を行うことは少なく、安定した運営にはまだまだ改善の余地はあるように思いましたが、これから始まる新型コロナウイルスとの共存を見

据えたいので、新たな時代の形を見出すきっかけとなったのではないかと思います。会議ではそれぞれのテーマ・課題について三名の講師により講演が行われました。今回の会議にふさわしく、それぞれ講師はWebを通してのオンライン講演となりました。



配信講演動画要チェック!



挨拶

日野隆文 教化委員長 要約

今年度の教区同朋会議は京都教区が宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百周年慶讃法要に向けてスタートを切るかわきりの事業として開催するものであり、特に私たちが法要に向けて取り組む「地区または組お待ち受け大会」に焦点を絞り、慶讃事業推進委員会お待ち受け大会部会が企画いたしました。

また宗派から発信されました「南無阿彌陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」というテーマに向き合うことが、我々の根源的かつ本質的な問いに向き合う大切な機縁になればと願っております。「仏事の回復」と「慶讃テーマ」は決して別のものではありません。むしろ、仏事の場そのものが「南無阿彌陀仏 人と生まれてき

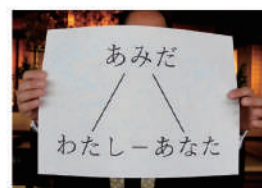
たことの意味をたずねていこう」という「如来の喚び声」を聞かせていただく如来教化の御仏事に成りえているのかということが、このテーマによって問われているのではないかと思います。

しらやまかつひさ

講演

白山勝久氏

本山慶讃テーマ委員



白山氏動画27分40秒頃

白山氏の講演は主に「私の居場所」ということを中心に話されました。現代という時代において自らの居場所の喪失を感じた時に、名前を呼ばれることはそれが自分の居場所となること。お念仏は称えている私が阿彌陀仏から呼ばれていることであって、そこに自らの居場所の存在が明らかになるのではないだろうか、今回の慶讃テーマはそういうところから始まった気がする、とお話されました。

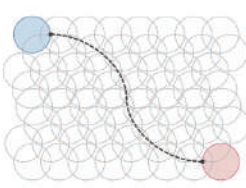
詳しくは『慶讃だより』創刊号に執筆いただきました文章をご覧ください。

講演

中山郁英氏

本山慶讃テーマ委員

なかやまいくえい



中山氏動画24分20秒頃

中山氏は講演の中で親鸞聖人が「人間」という言葉に左訓として「ひとどうまるるをいふ」という言葉で解説していることに主眼を置いて話されていたように思います。自身の存在を考えると「私は過去からの積み重ねの上に成り立っていると考える。しかし現在見えている表面としての自身は色々な肩書（現在）があり、それ自体私を表すものであることは間違いないが、それだけでは見えないことがある。またその人が通ってきた道（過去）もその人となりを表すが、それだけではわからないことも多い。それらが合わさって今の私がある」と。それは他の人との関係性によって生まれてくるものであり、私もまた他人の成り立ちに関わっているということだとお話されました。

こばやし なおき

講演 小林 尚樹氏

首都圏教化推進本部員



小林氏前半動画17分30秒頃

小林氏は「真宗の仏事の回復」というテーマでの講演でした。現在の首都圏、主に東京における仏事の現状や葬儀を取り巻く環境についてお話しされました。葬儀が簡素化、又は商業化されている現状では本来の仏事としての役割が伝わりに

くくなっているが、それを招いたのは僧侶自身やお寺が役割を果たせていないからだと葬儀業者から指摘を受けたこと。それがきっかけで、首都圏教化推進本部としてエディンゲン産業展に出展し、「誰のために葬儀を勤めるのか」というテーマのもと葬儀関係業界に向けての発信を行い、先ずは関係業界の方たちと共に葬儀の本来の意味を取り戻していく試みを紹介してくださいました。

提言 お待ち受け大会部会

最後に二〇二〇年度の教区同朋会議の開催目的を各参加者と共有するために慶讃事業推進委員会お待ち受け大会部会から提言がありました。

1. 「お待ち受け大会」は、広域な京都教区においては新型コロナウイルス感染症の蔓延する現在、感染拡大のリスクがあることも考慮して、教区独自の大会は開催せず、各地区または各組での地元開催をお願いしたい。
2. 「お待ち受け大会」の開催テーマは本山慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」で統一して行うことで教区としての一体感を共有しよう。

3. 「お待ち受け大会」とは大会の当日だけが「お待ち受け大会」ではなく、「大会の準備」・「大会の本番」・「大会開催後の総括」を合わせて初めて「お待ち受け大会」と言えるのだということとを共有したい。

4. 「お待ち受け大会」を開催するにあたり、本山が慶讃法要にあたり示した「五つの重点施策」である、「青少年教化」・「教師養成」・「寺院活性化」・「真宗の仏事の回復」・「本廟奉仕上山促進」を念頭において開催してもらいたい。

以上四点の提言と合わせ、会議において二〇二三年の宗祖親鸞聖人御誕生八百年・立教開宗八百年慶讃法要にむけての教区のこれまでの取り組みの報告、白山・中山・小林三氏の講演をもって、この会議が慶讃法要に向けてのスタートとなりました。参加者は前述の通り、各地区または組の代表者でもあり、今後地元においてお待ち受け大会・慶讃法要についての協議が活発になっていくことが願われて、閉会となりました。

（「慶讃だより」編集委員会）

※白山・中山・小林三氏の講演は京都教区ホームページにてご視聴いただけます。

京都教務所

検索



クロスワード パズル



正解者の中から抽選で3名様に「図書カード1,000円分」をプレゼントします。

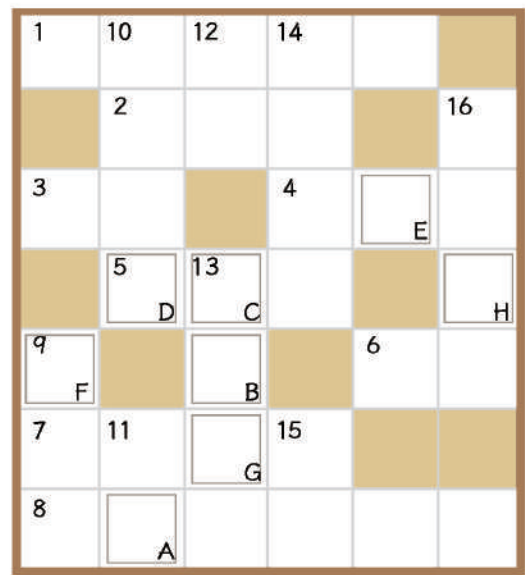
ハガキに、

- ① 慶讃クロスワードパズルの答え
- ② 郵便番号・住所・氏名・電話番号
- ③ 「慶讃だより」を読んだ感想


をご記入の上、京都教務所までお送りください。
締切は2021年11月1日(京都教務所必着)です。

【宛先】

〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入
京都教務所 「慶讃クロスワードパズル係」まで



ヨコのカギ

- 1 「慶讃」の読み方は、「けいさん」ではなく「〇〇〇〇〇」
- 2 「天神地祇はことごとく 善〇〇〇となづけたり」(聖488)
- 3 「〇〇に聖道・浄土のかわりめあり」(聖628)
- 4 「〇〇〇信樂、欲生我國」(聖18)
- 5 「〇〇〇諸仏浄土因」(聖204)
- 6 お内仏で勤行のときに打つものは？
- 7 内陣出仕の際に履きます。
右写真の履き物の名前は？ 
- 8 「光顔巍巍 〇〇〇〇〇〇」(聖11)

タテのカギ

- 9 「はやい」の反対は？
- 10 「〇〇〇〇のおおせをかぶりて、信ずるほかに別の子細なきなり」(聖627)
- 11 京都でお茶の産地といえは？
- 12 「それ、聖人の俗姓は藤原〇〇」(聖724)
- 13 『仏説観無量寿経』の第七観(聖102)
- 14 「三不〇〇〇〇誨慙慙」(聖206)
- 15 「念仏者にかぎらず、物さのみ〇〇べからず」(聖769)
- 16 『教行信証』は〇〇〇〇聖人の主著

※()内の「聖」は『真宗聖典』東本願寺出版

ご注意

- ◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。
- ◆いただいた感想は『慶讃だより』に掲載する場合があります。
- ◆個人情報情報はプレゼントの発送および紙面づくりの参考にし、それ以外の目的には使用しません。

答えのメモ(ひらがなでお書きください)

A	B	C	D	E	F	G	H

真宗大谷派 京都教区 『慶讃だより』2021年秋号
 発行人 日野 隆文(真宗大谷派京都教務所長)
 発行日 2021(令和3)年10月1日
 発行所 真宗大谷派京都教務所 Tel: 075(351)5260
 〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入
 Eメール kyoto@higashihonganji.or.jp
 表紙絵「お荘厳にたずねる」伊藤はるか

真宗大谷派京都教区ホームページ

京都教務所 検索 



編集後記

今号では、先に開催された2020年度教区同朋会議を特集しました。地区または組におけるお待ち受け大会に向けて準備に取り組むにあたり、配信講演動画も含め、ご参照いただければと存じます。先日、先輩のご住職が、慶讃テーマをふまえ、「生きるということそれは常に誕生の意味を問われ続けること」という言葉を紹介してくださいました。「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」という呼びかけから、あらたな言葉と出会い、そして共有することがひらかれるように感じます。(教化広報部会 比叡谷 真)